

東京都小中学校環境教育研究会会報

東京の青い空 第68号

会長 関口 寿也 多摩市立連光寺小学校 TEL 042-373-1920

事務局長 中村 太朗 江東区立辰巳小学校 TEL 03-3521-1164

HP <http://kankyokyoiku.jp>

繋がらない輪をどうするか

東京都小中学校環境教育研究会長
多摩市立連光寺小学校長 関口 寿也

マスクを付ける生活が1年半を過ぎました。マスクをうっかり忘れてしまい、公の場で一時的に外す必要があるときなど、不安な思いを抱いた経験があるのではないのでしょうか。マスク着用が日常化し、それは私たちの体内にも感覚として染み込んでいるようです。

SDGsはどうでしょう。先日、国連広報センターの方とお話しする機会がありました。その話の中で、日本ほどSDGsのロゴが市中に多い国はないとのことでした。「広報」「周知」といった意味では成功していると言えるでしょう。次のフェーズは言わずもがな実行です。ドイツのベルテルスマン財団が、各国の国連持続可能な開発目標(SDGs)の達成状況を分析したレポート「SDG Index and Dashboards Report」の2021年版を7月に発行しました。日本は2020年の17位から後退して18位。アジアではトップですが、地球環境の現状を知るにつけ、安堵していただける数字ではありません。マスク着用のように、私たちの生活の中に肌感覚としてSDGsの取り組みが染み込み、前進しているのでしょうか。

こんな経験はないのでしょうか。例えば脱プラスチックの授業実践を行い、子供たちと意思を一つにできた実感し、幾ばくかでも教育に携わる者としての使命を果たせた高揚感を得た帰り道に小売店に寄ると、陳列棚には一面のペットボトル飲料やブラ包装の菓子。給食の完食に日々一喜一憂しながらも、節分には恵方巻の大量廃棄のニュースが。地球自体や人類を脅かす環境問題は変わることなく歴然としてそこに存在し、私たちもそれに関心を寄せてはいますが、生活を変えるまでに至っていない現実がそこにはあるのです。併せて、こんなことを考えたことはないのでしょうか。ブラ包装をしていない食品を探すことが困難であり、また、小売店や飲食店で「スプーンはお付け

しますか?」「ストローは必要ですか?」と聞かれたときに、断ったそれらはどうなるのかを。

環境問題は、近年ますます多岐にわたるとともに、環境・経済・社会・政治が密接に絡み合い、一側面だけの取り組みでは決して解決することができません。教科書のない物事に、どこから取り組みれば良いのでしょうか。どこまで追究させて良いのでしょうか。懸命に探した解決策と裏腹に、身の回りには危惧する事態が溢れています。関わろうとすればするほど、教師の熱意の高さに比例して、その絶望感は計り知れません。結果、取り組み自体を諦めることになっていないのでしょうか。しかし、それでも、環境問題(教育)に取り組む必要があるはずだと多くの教員は感じています。

「スプーン」や「ストロー」の受け取りを拒否しても、授業で脱プラスチックを学んでも、作られた「スプーン」や「ストロー」はなくなりません。良かれと思ったアクションは、現状ではどうにも繋がらない輪そのものなのです。私たちの社会は、高度化・複雑化し、効率的な分業体制が確立しているが故に、そのシステムを一足飛びに循環型に変え、別のシステムに再構築することは至難の業です。であるのならば、僅かな希望を託せるのは、社会のシステムを繋がる輪に変えていくことのできる人材育成に他なりません。生まれ出る全ての子供たちは、学校という人材育成機関を経て社会に出ていきます。今、学校には、大きな可能性、期待、いや、役割があるのです。SDGsの4番目の目標である「質の高い教育」は、まさにこれを指してはいないのでしょうか。

私たちと一緒に、手を取り、協力して、環境教育を軸にした未来の地球を創造するための希望を、ESDによって追究しませんか。皆様の心意気を、アクセスに代えてお待ちしております。

[<http://kankyokyoiku.jp/>]

令和3年度東京都小中学校環境教育研究会総会報告

令和3年6月11日(金)、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、紙上にて東京都小中学校環境教育研究会総会を開催しました。議事として、令和2年度事業報告、決算報告、会計監査報告、新役員承認、令和3年度事業計画案、予算案、研究計画案について審議し承認されました。

◆令和2年度事業報告

1 令和2年度総会 6月15日(月)

紙上開催(新型コロナウイルス感染症対策のため)

2 研究部の活動の充実

- ・動物園研修会(6月20日)中止
- ・自然観察会(10月31日)高尾山
- ・野鳥観察会(1月23日)中止
- ・授業実践と事例研究

3 全国小中学校環境教育研究会と連携

第52回全国小中学校環境教育研究大会
(東京都小中学校環境教育研究会発表会と共催)

4 第56回東京都小中学校環境教育研究会発表会

品川区立大井第一小学校(校長 藤森 克彦)
新型コロナウイルス感染拡大防止の為、Zoomでの配信へ変更

5 研究紀要第31集の発行

6 会報「東京の青い空」第67号発行

◆令和2年度決算報告

1 収入

項目	予算額	決算額	適用
繰越金	509,154	509,154	R元年度繰越
分担金	850,000	904,000	1校1000円等
研究奨励費	160,000	0	都教職員研修センター
研究助成金	0	319,500	東京都研究助成金
利子	0	9	2回分
計	1,519,154	1,732,663	

2 支出

項目	予算額	決算額	適用
総会費	30,000	0	総会要綱印刷代
会場費	60,000	40,000	研究会会場費
事務費	30,000	6,569	事務経費
研究費	420,000	15,000	集録資料学費
講演会費	100,000	20,000	講師謝礼
見学費	30,000	6,000	交通費補助
印刷代	250,000	82,940	機関誌代
通信費	40,000	8,680	送料代
全国大会費	450,000	450,000	全国総会運営補助
発表会費	0	0	運営費
予備費	109,154	0	
計	1,519,154	629,189	

差引残高1,103,474円は、次年度に繰り越します。

3 会計監査報告

上記の決算について監査により相違ないことを認めます。

令和3年6月11日

会計監査

東京都教職員研修センター 國分 重隆
府中市立教育センター 野澤 由美

◆令和3年度事業計画

- 1 令和3年度総会（6月11日）
紙上開催（新型コロナウイルス感染症対策のため）
- 2 研究部の活動の充実
 - (1) 研修会（★中止としたもの）
 - ・自然観察会（10月31日）高尾山
 - ・野鳥観察会（1月23日）未定
 - (2) 授業実践と事例報告
- 3 全国小中学校環境教育研究会と連携
 - ・第53回全国小中学校環境教育研究大会
（東京都小中学校環境教育研究発表会と共催）
- 4 第57回東京都小中学校環境教育研究会発表会
（2月26日）
品川区立大井第一小学校（校長 藤森 克彦）
- 5 研究紀要第32集の発行
- 6 会報「東京の青い空」第68・69号発行

◆令和3年度予算

1. 収入

項目	予算額	適用
繰越金	1,103,474	R2年度繰越金
分担金	850,000	分担金1校1,000円等
研究奨励費	160,000	都教職員研修センター
利息	0	
計	2,113,474	

2. 支出

項目	予算額	適用
総会費	40,000	総会要項印刷等
会場費	70,000	定例役員会、研究部会、研究員発表会費
事務費	30,000	事務経費
研究費	500,000	集録作成、研究資料費、環境教育学会会費、夏季研修費
講演会費	200,000	講師謝礼
見学費	50,000	研修会見学費、交通費補助
印刷・広報費	300,000	「東京の青い空」No.68~69

		ホームページ更新料
通信費	40,000	通信 送料等
全国大会費	300,000	全国大会紀要作成補助 運営補助等
発表会費	150,000	都発表会運営費
予備費	433,474	
計	2,113,474	

◆令和3年度役員

役職	氏名	学校名	役職
顧問	竹田雄二郎	青梅市教育相談所	所長
	棚橋 乾	前多摩市立連光寺小	前校長
会長	関口寿也	多摩市立蓮光寺小	校長
副会長	藤森克彦	品川区立大井第一小	校長
	箱崎高之	調布市立北ノ台小	校長
事務局長	中村太朗	江東区立辰巳小	校長
事務局次長	鯨坂映子	町田市立鶴川第三小	校長
	山口京子	杉並区立杉並第十小	校長
	伊藤修久	世田谷区立玉堤小	校長
研究・広報課長	鈴木 元	町田市立大蔵小	副長
研究・広報部副部長	石塚裕幸	足立区立興本小	副長
	森田真好	多摩市立愛和小	副長
	井田 孝	千代田区立麴町小	副長
	天野 拓二	多摩市立鶴巻中	副長
会計部長	福井みどり	墨田区立第三寺島小	校長
総務課長	伊勢明子	杉並区立浜田山小	校長
会計監査	國分重隆	東京都教職員センター	非常勤
	野澤由美	府中市立教育センター	指導員
OB役員	富田 広	多摩教育事務所指導課	指導員
	杉本茂雄	前中央区立坂本小学校	前役員
	宮原 元	品川区教育委員会学校地域連携課	コーディネーター
	末吉潤一	元江戸川区立西小岩小	元校長
	邊見公子	前杉並区立桃井第三小	校長
	阿閉暢子	前多摩市立愛和小	前校長
	佐々木智津子	前中野区立鷺宮小	前副長

令和3年度 東京都環境教育研究会 活動計画

月	日	曜	開催会合	場 所	内 容
4	22	木	役員会 1	杉並区立杉並第十小	・役員、地区理事の確認 ・絵画コンクール企画説明 ・都総会、全国理事会の準備
5	17	月	絵画コンクールキック オフミーティング		副会長・絵画担当出席
5	27	木	役員会 2	杉並区立杉並第十小	全国大会一次案内・分担金依頼準備
5	27	木	研究員 1	杉並区立杉並第十小	17:00～ 研究方針、研究予定
6	11	金	都研究会総会 14:00 全国理事会（総会前） 役員会 3	書面開催	総会 昨年度報告と今年度計画、 名簿、紀要配布等 第1回全国理事会（書面開催）
6	17	木	研究員 2	杉並区立杉並第十小	17:00～ 定例会
6	19	土	動物園研修会(★)	東京都立恩賜上野動物園	上野動物園の見学と学習コース体験
7	12	月	役員会 4	杉並区立杉並第十小	全国大会要項骨子確認 分担金依頼発送作業
7	21	水	研究員 3	杉並区立杉並第十小	15:00～ 定例会
8	4	水	都:役員・研究員研修会(★)	オンライン	J-Power 主催 オンライン研修
8	5	木	リサイクル研修会 (10月へ延期)	あらかわりサイクルセンター	13:00～ スチール缶リサイクルについて
8	23	月	自然観察会(10月へ延期)	高尾山	東京都の自然・動植物の観察
8	27	金	研究員 4	オンライン	17:00～ 定例会
9	10	金	役員会 5	杉並区立杉並第十小	全国大会二次案内発送 東京の青い空 編集
9	24	金	研究員 5	杉並区立杉並第十小	17:00～ 定例会
10	1	金	絵画コンクール審査会	エコギャラリー新宿	審査会（協賛企業等、審査委員長：岡 本先生）13:30～
10	11	月	研究員 6	杉並区立杉並第十小	17:00～ 定例会、 都・環境教育フォーラム準備(★)
10	16	土	リサイクル研修会	あらかわりサイクルセンター	13:00～ スチール缶リサイクルについて
10	18	月	役員会 6	杉並区立杉並第十小	都・全国大会要項準備
10	30	土	自然観察会	高尾山	東京都の自然・動植物の観察
11	9	火	役員会 7	杉並区立杉並第十小	都・全国大会要項完成、準備検討 絵画コンクール表彰式準備
11	12	金	研究員 7	杉並区立杉並第十	都・環境教育フォーラム参加 17:00～ 定例会、都・全国大会準備
11	18	木	全国大会・前日準備 全国理事会	オンライン	準備・レセプション
11	19	金	第53回全国大会 第57回都発表会	オンライン	講演会講師：国連広報センター所長 根 本かおる氏、国連大学 Evonne Yiu 氏
11	27	土	絵画コンクール表彰式	マイプラザホール	
12	2	木	役員会 8	杉並区立杉並第十小	都・全国大会、絵画コンクール表彰式反省
12	2	木	研究員 8	杉並区立杉並第十小	17:00～ 定例会、都・全国大会準備
1	13	木	役員会 9	杉並区立杉並第十小	研究紀要関係
1	13	木	研究員 9	杉並区立杉並第十小	17:00～ 定例会、研究紀要原稿確認
1	29	土	野鳥観察会	会場：未定	
2	1	火	役員会 10	杉並区立杉並第十小	都・全国大会準備、研究紀要作成
2	1	火	研究員 10	杉並区立杉並第十小	17:00～ 定例会、研究紀要原稿確認 都・全国大会準備
2	25	金	研究員 11	杉並区立杉並第十小	17:00～ 今年度反省
3	7	月	役員会 11	杉並区立杉並第十小	令和3年度反省 令和4年度計画

(★) は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため中止としたもの

令和3年度東京都小中学校環境教育研究会研究主題**持続可能な社会づくりのための環境教育の推進**

～環境教育によって育む学力と環境保全意識～

1 主題設定の理由

気候変動の影響により世界各地で発生している異常気象や、エネルギー問題、貧困や飢餓など、人類がかつて経験したことのなかった環境問題が地球規模的に生じている。昨年5月に北海道の佐呂間で最高気温 39.5℃に達したことは記憶に新しい。全国的に見ても5・6月に真夏日となる日が多くなっている。現在、小中学校では、新型コロナウイルス(Covid-19)感染症対策のマスク着用と併せて、熱中症対策を講じなければならず、体育的行事だけでなく、日常の校庭利用や水泳指導の中止を余儀なくされることも増加している状況である。

今年4月、米国で開催された気候変動サミットにおいて、日本政府は温暖化ガスの排出量を2030年までに、2013年度比で46%削減すると表明した。この46%という数値は、これまでの削減目標である26%から大きな積み増しである。また、その他の国も相次いで新たな削減目標を表明した。これらの目標は本当に実現可能な目標なのであろうか。国内では、地域における2050年脱炭素社会の実現に向けた施策を検討する国・地方脱炭素実現会議が6月9日に首相官邸で開催され、2030年までに少なくとも100カ所の脱炭素を実現する先行地域を創出することなどを盛り込んだ「地域脱炭素ロードマップ」を取りまとめた。このロードマップの地域と暮らしに関わる個別分野別の対策・促進施策には、循環経済への移行として「プラスチック資源循環の促進」や「食品廃棄ゼロを目指す先行エリアの創出」、「循環型ファッションの促進」などが掲げられている。

また、各国政府のみならず、民間企業や経済界はSDGsに対して大変真摯で積極的な取り組みを進めている。ダイベストメントや石炭火力発電所の運用停止、RE100、喫煙対策、フードロス対策等、マスコミが話題を提供しない日はない。その根底にあるのは、SDGsが世界共通言語であるということ、「ひとごと」から「自分ごと」へとといった意識の転換と、「企業経営」としての戦略の転換である。

学校教育において、新学習指導要領の前文に、「持続可能な社会の作り手となることができるようにする」と記されている一方、多くの教員は、「持続可能な社会の作り手」の育成に対するビジョンが明確ではないのが現状である。持続可能な社会の実現には、指

導する教員自身の意識の変容も不可欠となっている。これまで本研究会が取り組んできたESDは、その実現を可能にすると思える。それは、教育の、教師の、そして児童・生徒の変容をまさに希求するものである。

～温暖化対策をはじめとする持続可能な社会づくりに、教育は座しているだけではない～

私たち東京都小中学校環境教育研究会は、この合言葉強く胸に抱き、2100年を生きる子供たちへの持続可能な社会づくりというパラダイムシフトを進めていく人材を育成していく使命がある。これまで本研究会が取り組んできたESDは、その実現を可能にする希望であり手段となりうると信じて止まない。新しい環境教育(ESD)におけるねらいの設定、授業デザイン、指導方法などについてさらに広く深く確信をもって研究を進め、指導者側の意識転換と、児童・生徒の変容を図っていく。

2 研究の方法

- (1) 役員定例会で理論構成を行う。
- (2) 本研究会で作成した「新しい環境教育」で示した児童・生徒の3つの能力・態度をもとに、研究部において授業実践を行う。
- (3) 東京都小中学校環境教育研究会の研究発表校や外部機関と連携をし、研究実践を深める。

3 研究の内容

《理論構成》

- (1) これまでに実施されている環境教育やESDの優良事例を分析し、環境教育やESDを推進するための学校経営や授業の在り方について検討する。
- (2) 幼稚園・小学校・中学校の発達段階に応じた、学習活動のねらいや方法を研究する。

《実践研究》

- (1) 「新しい環境教育」の3つの能力・態度をもとにした実践を行う。
- (2) 環境教育やESDによる自己の変容について研究を深める。児童・生徒が自らの思いや考えを明確に意識し、その変容を捉えることができるように、ポートフォリオやイメージマップ等を取り入れた学習方法とその評価方法に関する研究を深める。

オンライン開催

第53回全国小中学校環境教育研究大会（東京大会） 第57回東京都小中学校環境教育研究発表会

研究主題

持続可能な社会づくりのための環境教育の推進 ～環境教育によって育む学力と環境保全意識～

1 日時 令和3年11月19日（金） 13時30分～17時00分

2 時程

13:30 13:50 14:50 16:50 17:00

開会式	研究発表	講演／パネルディスカッション	閉会式
-----	------	----------------	-----

3 講演



「SDGsを自分事に
私たちと世界・地球を
つなげる思考を」
講師 国連広報センター
所長 根本 かおる 様

東京大学法学部卒。テレビ朝日を経て、米国コロンビア大学大学院より国際関係論修士号を取得。1996年から2011年末まで国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）にて、アジア、アフリカなどで難民支援活動に従事。ジュネーブ本部では政策立案、民間部門からの活動資金調達のコーディネートを担当。WFP 国連世界食糧計画広報官、国連 UNHCR 協会事務局長も歴任。フリー・ジャーナリストを経て2013年8月より現職。2016年より日本政府が開催する「持続可能な開発目標（SDGs）推進円卓会議」の構成員を務める。著書に『難民鎖国ニッポンのゆくえ - 日本で生きる難民と支える人々の姿を追って』（ポプラ新書）他。



「地球環境の今
～生物多様性と私たち～」
講師 国連大学サステナビリティ
高等研究所（UNU-IAS）
研究員 Evonne Yiu（イヴォーン・ユイ） 様

シンガポール出身。東京大学農学生命科学博士（国際水産開発学）、東京大学公共政策修士、シンガポール国立大学日本研究学士号名誉学位（日本研究学と心理学）。初来日の2001年に以降は、宮崎県、シンガポール国家交通省などの勤務を経て、2012年から現職。UNU-IAS 国際 SATOYAMA イニシアチブの研究者であり、生物多様性保全のための「社会生態的生産システム・シースケープ」（SEPLS）といった里山・里海の活性化と持続可能な管理を通じて、自然と調和した社会を実現するための世界的な取り組みの促進に取り組んでいます。また日本や韓国の国連農業食糧機関「世界農業遺産（GIAHS）」の申請活動を支援するとともに UNU-IAS 金沢ユニット（OUIK）の「能登の里海ムーブメント」活動にも取り込み、里山と里海の持続可能な発展についても研究。2018年9月に生物多様性及び生態系サービスに関する政府間プラットフォーム（IPBES）のフェローとしても選ばれ、「自然とその恵みに関する多様な価値観の方法論的評価」と題した国際的研究報告書の執筆にも関与。

4 パネルディスカッション 根本かおる様、Evonne Yiu 様、東京都小中学校環境教育研究会研究員

5 参加費 1,000円（研究紀要代）ただし、全国会員は無料

◆ お申し込み後に確認メールが届きます。記載されている口座へお振込みください。

6 主催 全国小中学校環境教育研究会 <HPアドレス <http://kankyokyoiku.jp/>>
東京都小中学校環境教育研究会 <HPアドレス <http://kankyokyoiku.jp/tokyo/>>7 後援 文部科学省 環境省 東京都教育委員会 全国連合小学校長会 全日本中学校長会
東京都公立小学校長会 東京都中学校長会 日本ESD学会 日本環境教育学会
ESD活動支援センター 関東地方ESD活動支援センター8 大会事務局 東京都 調布市立北ノ台小学校 校長 箱崎 高之
〒182-0011 東京都調布市深大寺北町 2-41-1
TEL 042-485-1291 FAX 042-499-41829 申込み方法 本会ホームページからお申込みください。
※資料の都合上先着300名とさせていただきます。